

實  
驗  
日  
本  
修  
身  
書  
卷  
二  
尋  
常  
小  
學  
生  
徒

K120.1  
55  
2c

K120.1

55

2c

明治廿六年九月十八日  
文部省檢定濟

三宅朱吉校閱  
中根淋  
渡邊政吉編纂

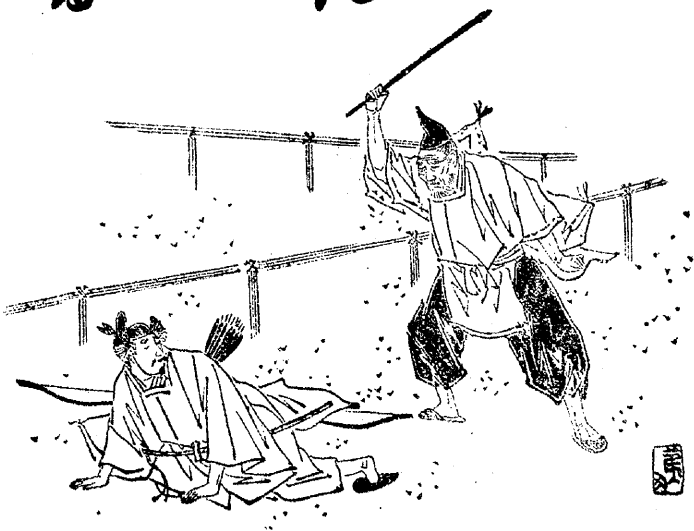
實驗  
日本修身書卷二  
尋常小學  
生徒用

東京 金港堂書籍株式會社

第一課 孝行

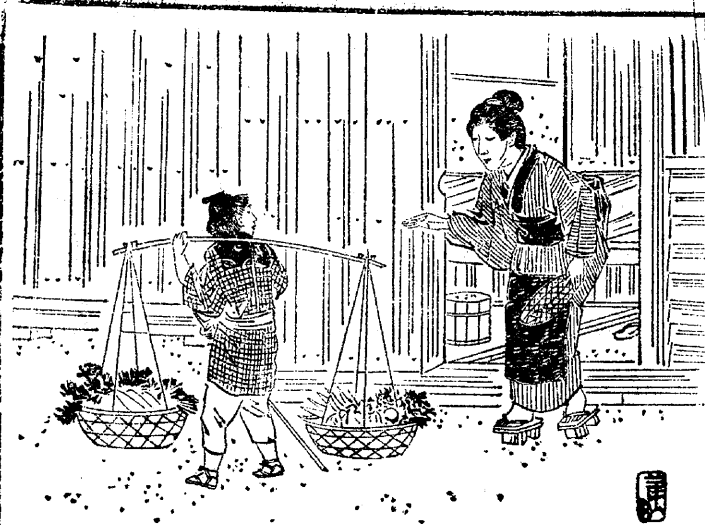
父母のをーへ  
あらば、つーん  
できくづー。

シモツケノキンステ  
下毛野公助はゆみいる



ことをよくせー人なりーが、はれ  
のばーよにて、いーうんどければ、うの  
父いかりて、うちこらさんとせーを、  
にげもせずーて、うたれたり。  
親の心には、さかふべからず。

第二課 孝友



セイシチ  
清七は、ねんごろに  
父のやまひを  
かいはり、やさ  
などをりりて、

いへのくろりをたてたり。

父りてのちは、母の心をよろこば  
しめんことをつとめ、またよく弟を  
いつくりみたり。

父母の心をよろこばしむるは、孝なり。

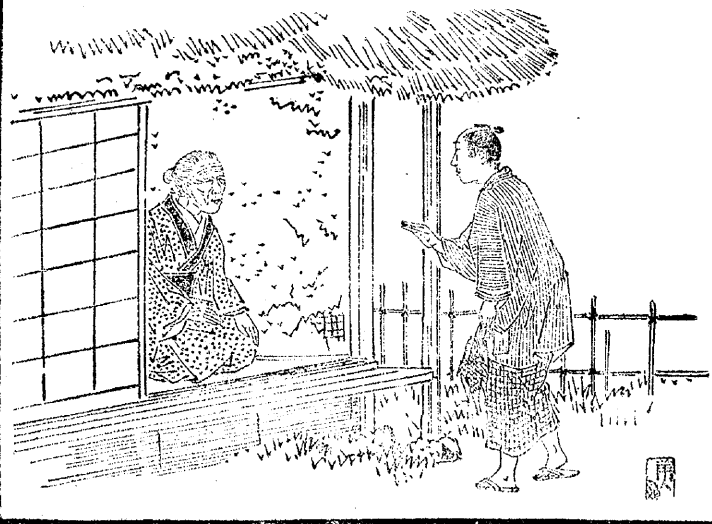
第三課 孝悌

孝悌は、身ミを

立タつるの本なり。

甚シ助スは、つねに

母に孝行をつくり、



うとにいつれば、うのこのむものを  
もどめきたりて、母をよろこばせたり。  
うのうへ兄にも、よくすなほに  
つかへければ、國主コクノミよりはうびを  
たまはりたり。

總太郎父の  
をへそく。



第四課 友愛



總太郎兄弟は、  
父母の言をまもり  
て、むすまゝくまはり、  
家を分ちたるのち

も、<sup>ソウタケ</sup>兩家一たりみむつみ、<sup>ニケンノイヘ</sup>ともによげふ  
をつとめて、いさよかもものあらうひ  
をなござりま。  
父母のほかには、兄弟ほご  
したりきはなし。

第五課 婦徳

女子はなにごとも、  
ものやはらかにして、  
こゝろは少く、ひかへめ  
なるをよいとす。



とく女姉妹にむかひて女の  
こころは少くひかへめ  
なるをよいとす。

心さわがく、こゝろは多くして、ほごりがほ  
なるはよろからず。  
とく女姉妹のことをみても、  
のよーあーをーるべー。  
言をばひかへ<sup>オコナ</sup>行ひをばつむべー。

第六課 朋友



己れに―かざる  
 ものを友とする  
 ことなかれ。  
 善き人にま―は

ば、日日に善きことをし、善き  
 ことをみならひて、アいさあり。  
 悪き人にま―はれば、日日に  
 悪きことをし、悪きことを  
 をみならひて、うんあり。



第七課 約束

名和長年ナガトシは、信實

の人にて、一たびも

約束ヤクソクにうむぎたる

ことなし。ある日



たはぶれに、うーかひに松をあたへん  
 といひに、父これをききまじかに  
 松をきりて、うのものにあたへたり。  
 ことばは、かならず信實にすべし  
 かりうめにもいつはるべからず。

第八課 潔白

モロザキシヤウエモン  
諸崎莊右衛門といふ

人いせまわりのかり

あるちやみせに

やすみもちののこり



を、よつどひたることもらにあたへたり。  
―かるにうのうちの一は、かなた  
にたちさりて、「人のあま―たるもの  
などを、なにとてもらひてくふま  
や」といひたり。

第九課 廉直

心正直ココロタウジキにして  
いとせよまき人は  
みだりにものを  
とることなり。



あるはたごやの女、たびひとの  
わすれられたるかねづつみをみいだし、  
たいせつにをさめたまて、すのぬい  
にかへせり。

廉士レンシは、みだりにとらず。

第十課 博愛



何事も、人の上を思  
ひはかりて、我が身  
ひとつを利すべからず。  
ただ我も人も、とも

によま<sup>ヤマガタ</sup>やう<sup>ヤ</sup>にと心<sup>シヤウ</sup>がく<sup>ハ</sup>べー。

山形屋<sup>ヤマカタ</sup>莊兵衛<sup>ヤシロウ</sup>は、近所<sup>シヤウ</sup>より火事<sup>ハ</sup>のねこり

しとき、直ちに外に出でて、「火事あり、さく

水をくみ<sup>チウ</sup>たけよ」とよびて、町内<sup>チウ</sup>をふれまはり、

しかるのち、己れの家をかたづけたり。

第十一課 勤勉

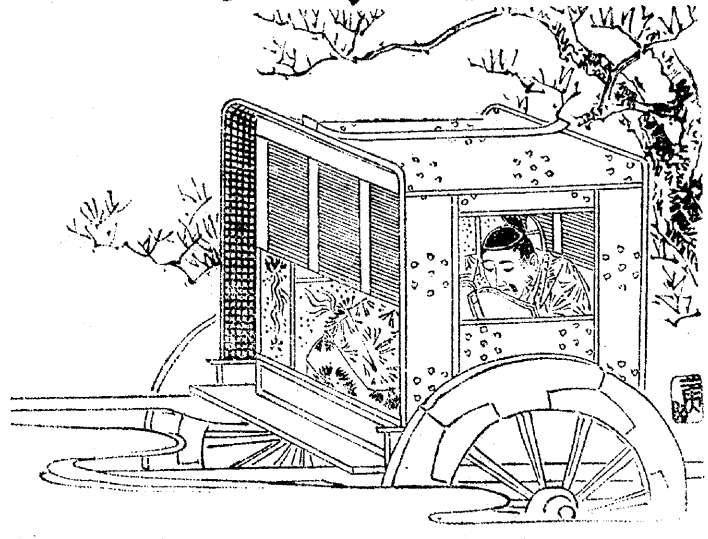
フチハランアリヒラ  
藤原在衡は、人に

すぐれたる、サイガク才學

チエガクモン

ありーにはあら

ざれども、車の中



にても、つとめてーよもつをよみ

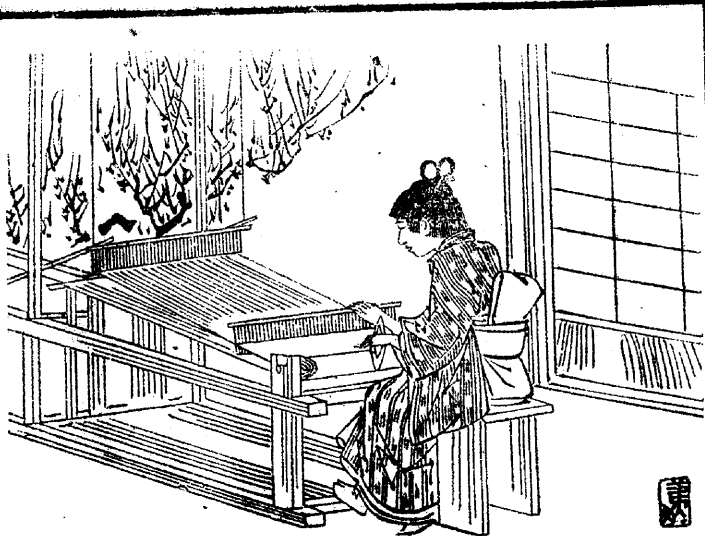
チシマツ天皇のなんたづねにこたへたてまつりけれ

ば、天皇これをほめたまひたり。

人一たびーて、これをよくすれ

ば、己れは、これをモト百たびす。

第十二課 勤勉



つとめてれたら  
ざれば、なにことも  
なるものなり。  
むかー井上でんと

井ノウヘ

いふものあり、幼くして、はたれる  
ことをこのみ、そのわざをつとめ  
けるが、つひにくるめがすりとお  
ものをわりいだせり。  
勤むれば功あり。

第十三課 攝養

人はつねにくひもの  
のみものをつつしみ  
うんどうをつとめ、からだ  
をきよやかにすれば

貝原益軒  
書を著す。



やまひにかかることなくて長生エキケンセイ  
するものなり。  
ナガイキ

益軒先生エキケンセンセイの老いてオたどろつごりトシマシは、  
まったく養生ヤシキョウのオシかりなり。

身をたもつには、養生のみちをたのむべし。

行基橋  
をか



第十四課 公益

善ぜんをするは、さか  
のぼるがごとし、ゆだん  
なくつとめよ。

行基ぎきは、國國を

つめぐりて、みちをつくり、はしをかけ  
もののつくりかたなどをつたへて、世よの益えき  
をはかりたり。岡本嘉藏ヲカモトカザンは、人のためを  
思ひて、むらざかひのみちををさめたり。  
いづれも公益こういの心こころふかきものやぶべし。



第十五課 勇氣

真マコトの勇者ユウシャは、みだりに

人ヒトと争アライソはぬものなり。

塚原ツカハラ卜傳ウラハクデンは、けんごり

の達人タツジンなり。あるとき



舟フネにて近江オホミの湖ウミをわたりけるに、一人の

武士ブシ一ヒトきりにたたかひをいどみければ、

舟フネをあるところにつけさせ、その人を陸ウチに

上げ、舟フネをつきいだして立ちざりたり。

勇者ユウシャは怯オクモシクなるかごぞう！

第十六課 皇恩

神武天皇は、民の  
 くるみ<sup>シム</sup>をすくはんと  
 て、日向の宮をまきど  
 たまひ、大和の國に



入りて、命にいたがはざるものをうちたひらげ、  
 天皇の御位につきて、世を治め、民を恵み  
 たまひき。これより世よく治り、我が身も  
 今の御代に生れて、安くくらざることをなれ  
 ばいかでその御恵みをうらでかなふべき。

第十七課 報恩

福嶋正則フクシマ マサノリの近臣某キンシシ ナカシ

オバノクライ

といふものつみを

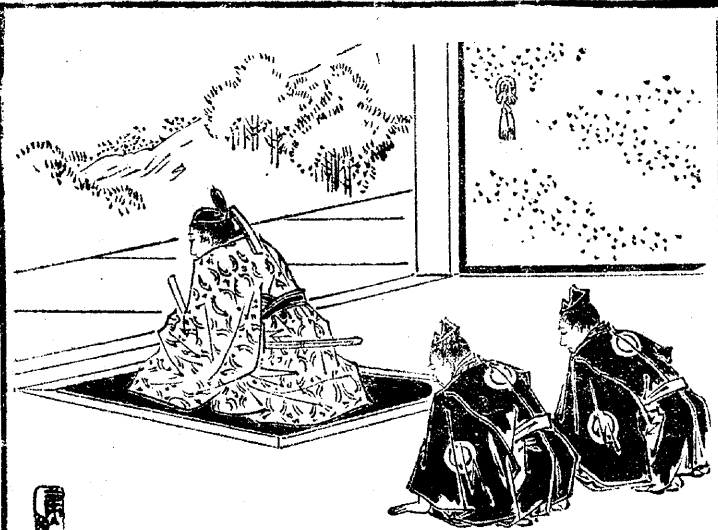
正則に於て、一人の

やぐらに於てこめられ



うゑてゝなんとせしに、一人の茶坊主チャバウズ、  
もとの思に報カクいんとて、毎夜マイヤをこめり  
をもちゆき、そのうゑをたすけたり。  
恩をほごししては、れもぶことなかれ。  
恩をうけては、わするることなかれ。

第十八課 尊王



人の行ひは忠孝チウカウあり  
 大いなるはなオホし。  
 徳川光圀は、ふかく  
 朝廷テウテイをなぶとび、一月

一日には、必ず朝カネラはやくアサ起きて、禮服レイフクを  
 き、天皇のまカタます方カタに向ひて、敬禮ケイレイ  
 を行ひ、又マタ大日本史ダイニツポンシをつくりて、天皇の  
 御系統ゴケイをオンチスあきらかにし、忠孝チウカウの人を  
 ほめ、正成マサレダのはかをもたてたり。

第十九課 愛國

ヤマザキアンサイ

山崎闇齋、あるとき、

でーに向ひて、「もー

ヨウシ ヨウシ ヨウシ

孔子季の兩人、大將

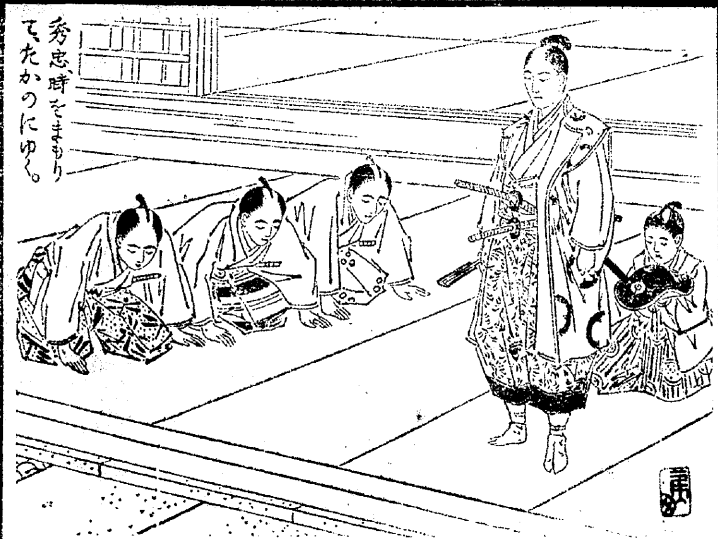
となりて、我が國にせめ



蔵

来りなば、いかがすべしや、  
 けこたへずして、先生のをへをこひたり。  
 闇齋これにさして、「我はこれとたたかひ  
 て、兩人をとりこにすべし」といひたり。  
 君と國とをわするべからず。

第二十課 掟を守る



國の掟オキテは、世を治め、  
 人を安んヤスぜんがために、  
 まうけたるものなれ  
 ば、つづみつづみてこれに

「たがひ、かりうめにも、たろろかに思ふ  
 べからず。」

徳川秀忠トクガハヒデタカは、つづみつづみふかき人なり、つねに  
 父の定めサダたかれたる掟オキテを守りて、國を治  
 め、いささかもこれにたがふことなかりき。

# 岡治道

K1201-55-2C

日本修身書

卷二

金港堂書籍株式會社

卷一、三、四、  
 同 明治廿六年六月十日 印刷  
 同 年六月廿七日 發行  
 同 年九月三日 訂正再版印刷  
 同 年九月七日 發行

尋常日本修身書生徒用  
 卷一 金六錢六厘 卷二 金六錢六厘  
 卷三 金六錢六厘 卷四 金六錢六厘  
 卷五 金六錢六厘 卷六 金六錢六厘

著者 渡邊政吉

發行兼印刷者 金港堂書籍株式會社  
東京市日本橋區米町三丁目十七番地

代表者 原亮三郎  
右社長 同 下谷區龍泉寺町四百七番地

賣捌所 各府縣特約販賣所

版權所有

此の書  
 字引



日本修身書字解

全一冊  
 定價金拾貳錢

12. 2. 29

文教部寄附品  
 委員會

持主岡沼道